

# 初級中国語における教授法の探索

張 璐

## はじめに

本文は、初級中国語の教育における教授方法について述べるものである。ここで言う初級中国語は、日本の大学一年次で学習する中国語のレベルを指す。ここ数年、筆者が主に大学一年次の学生を対象に中国語教育を行っており、教育現場で様々な試行錯誤を経て、よりよい教授方法を探しつづけている。本文を通して、これまでバラバラに実践してきた教授方法をまとめようと考えている。

## 一、学習目標の設定について

中国ではこのようなことわざがある。「**师傅領进门，修行在个人。**」本来、大学における教育は手取り足取りのようなものではなく、教員が知識の枠組みを与え、学生自身がその肉付けをしていく。しかし、近年学生の質が変化し、昔のように各自の「修行」に任せることに対して教員は不安を感じるのが実情である。とりわけ語学、単に言語技能の習得として軽く見られる傾向がある。

また、実際、学生が語学の学習に使う時間も「修行」と言えるほど多くない。日本の大学では、第二外国語に割り当てた学習時間数は週に1コマ二年間、または週に2コマ一年間というパターンが多い。一年間の学習時間は30週間で、1コマの授業時間が正味90分間と計算すれば、大学一、二年次を通して中国語の授業時間は90時間になる。この授業時間数はおそらく一般的であろう。文系専攻の学生はその時間数より少し多くなる。また、授業以外に学生はどのくらい語学に時間を割くのか、まちまちであろう。従って、この90時間の中で、学生はいったい何が学べるか、そして教員はどこまで教えるかということを考えて、全体の目標を設定しなければならない。

目標設定への第一歩は、これから一年間付き合う学生の情報を集めることだと考えている。

筆者は毎年新入生の第一回目の授業で、必ず次のようなアンケートをとっている。

- ① 中国について知っていること
- ② 中国語の学習歴があるか否か（学習歴がある場合、

その期間)

- ③ 中国語を履修するきっかけ、目的
- ④ この授業への要望

単純にこの回答によって学生のことを判断することはできないが、ある程度の情報はこの回答から読み取れる。

①について、学生の多くは高校の授業やテレビなどを通じて、中国に関する一定の基礎知識を持っている。しかし情報源の違いによって、学生が持っている情報も偏っている。この点について、授業を通して、できるだけあらゆる側面から情報を与え、学生がさまざまな情報を判断できるように工夫しなければならない。

②については、学習歴ゼロの学生がほとんどである。最近、高校の授業や部活に中国語を取り入れたり、中国で仕事をする日本人ビジネスマンが増えている。これらの事情が故に、1クラスのうち、1～2名の学習経験者や、暫く中国に滞在したことのある者もいる。しかし、全体的にみると、99%の学生のスタートラインは同じになる。したがって、授業では、これまで通りに発音の仕方から導入し、基礎的な文法を習得するという目標を設定する。

③については、単位取得が大きな履修目的になる。そのほかに、周りの影響によって履修する者や、将来仕事に使えるという漠然的な考えをもっている者も多い。しかし、大学の語学の授業を受けて、将来どのように仕事につながるかは理解していないのが実情である。目的性がはっきりしていないので、学生は授業を受けているうち、学習意欲をなくしたり、何のために中国語を習っているかが分からなくなってくる。このまま授業を進めていても、学習効果が上がらない。学生に将来使えるように感じさせるために、毎回の授業で細かい達成目標を設定しておく必要がある。

④について、楽しく、分かりやすく、易しくするのが学生からの希望である。具体的に、どんなふうにするかに関してはほとんど白紙回答で、これまでの受け身的な授業の仕方から考えると、これも当然な回答である。学生同様、教える立場から、やはり楽しく、分かりやすく、易しくするのが理想的である。特に初習の言語に対しては、嫌なイメージがついてしまうと、なかなか抜け出せないものである。学習目標を設定する際、この点を考慮

しなければならない。

## 二、教案の作成について

近年中国では、母国語が中国語ではない学生を対象に実施されている中国語教育はより規範的になり、科学性も高くなってきている。英語教育 (TESOL-Teaching English to Speakers of Other Languages) と同じように第二外国語教育として、中国語教育は一つの学問になりつつある。その中に、教案の作成が教授方法の研究課題の一つとして取り上げられている。教室の中で、教員は自分の持っている知識や技能を口頭で学生に伝授する。一回一回の講義で、何をするか、どのような目標を達成するか、授業の展開について、必ず事前に何らかの準備が必要である。教科書の棒読みが一番避けたいやり方である。教科書に基づく教案、あるいは教科書をうまく解説できるような教案を作成することは初級教育の中で重要視されている。

教案は自分の理解に基づいて、教科書にある内容を組み直し、肉付けするものである。学生が教科書の内容を理解し、うまく吸収するために、教案は重要な役割を果たす。教案の書き方は様々で、略式のものがあれば、詳細なものもある。経験のある語学教員は古い教案を繰り返し使うことはない。たとえ使うとしても、内容に手を加えなければならない。なぜなら、学習者が常に変わり、その学習方法や学習対策も異なる。学習者に変化があれば、教案の設計もそれに合わせて変更しなければならない。また、教案はそのスタイルに対する拘りがなく、作成者の個性を表す。模範的な教案は一般的に次のような内容が含まれる。

- 教学内容 (授業内容)
- 教学目标 (授業目標)
- 教学程序 (時間分配) (授業プロセス (時間配分))
- 教学环节 (教学步骤) (授業のステップ)
- 教学方法 (授業方法)
- 课堂教学活动 (教室における学習内容の実践、学生との連動)
- 教学辅助工具 (图片、实物、教具) 准备 (イラスト、实物、小道具など補助教材の準備)
- 课下语言实践、作业及检查<sup>1</sup> (授業後の実践、宿題、宿題のチェックなど)

福岡大学では初級中国語のクラスのために、試用教科書『漢語課本』を作っている。この教科書を通して、これまでの初級教育方法を探る実践教材にしたいと考えて

いる。この教科書は、発音編と本編の二つの部分からなっている。発音編では、第2課は子音 (表1) で、第3課は複母音 (表2) になっている。この二課の内容を参考に、上記の教案のひな形を使って、発音編の教案の一例を作ってみる。

授業内容：子音 (唇音、舌尖音、舌根音) と複母音  
授業目標：子音と複母音の表記を見て、読める。さらに子音と複母音を組み合わせ、音節を読める。

プロセス (時間配分)： 前回 (単母音、四声) の復習 (15分間)、子音・複母音の読み方 (20分間)、音節の練習 (10分間)、記憶のための自習 (10分間)、全体の復習 (20分間)、個別の発音指導 (15分間)

授業のステップ：まず、子音のグループの子音カードを黒板に張り付けながら、読み方を紹介し、繰り返し読ませる。次に複母音のグループも子音同様に練習する。さらに、カードを手にして、出した順に学生に読ませる。学生の自習時間終了後、二人の学生を黒板の前に来させ、それぞれに子音と母音の担当を決める。子音と母音の組み合わせのペアを探させる。具体的に次のように行う。先生はある音節を発音し、二人はそれを聞き取って、目当ての子音と母音を探す。クラス全員で正解を確認する。このやり方に慣れてきたら、二人の共同作業から、一人の単独作業に切り替えてもいい。またはクラスを二つのグループに分けて対抗戦をする。ゲーム感覚で音節の組み合わせ方と読み方を覚える。最後に子音と複母音のアニメ映像を見せながら、表記をさらに印象付ける。

授業方法：①教員のリードによる読み方の練習、②子音と複母音のカードを使って、表記を記憶し、読み方を練習する、③映像による復習

補助教材の準備：子音と複母音のカードを作っておく。子音と複母音関連のDVDを準備する。

宿題：教科書にあるリスニング練習問題を解く

<sup>1</sup> 《对外汉语教学课堂教案设计》p2、华语教学出版社、吴勇毅等编著、2004

(表1)

	無気音	有気音	
唇音	b(o)	p(o)	m(o) f(o)
舌尖音	d(e)	t(e)	n(e) l(e)
舌根音	g(e)	k(e)	h(e)
舌面音	j(i)	q(i)	x(i)
卷舌音	zh(i)	ch(i)	sh(i) r(i)
舌歯音	z(i)	c(i)	s(i)

初習の学生にとって発音の部分が大きい。したがって、発音編では、単母音→子音→複母音→鼻母音という順にピンイン記号を紹介する。多くの教科書は、それらを別々の課に組み入れている。それはシステムそのものが崩れてはいけなためである。しかし、実際、覚えやすいために、記号の順番、難易度がある程度調整することができる。たとえば、上記の例のように、子音の一部と複母音を同じ授業時間内に組み入れる。教える際、課の枠にとらわれると、学生が退屈に覚え、学習効果が期待できない。枠を超えて、子音を半分に、複母音を半分に、組み合わせると、ピンイン記号を学習する意味が分かってくる。また、学生に一定の自由時間を与えることで、堅苦しい発音練習のなかから解放し、リラックスモードを作る。さらに、決まった自習時間の後、すぐに学習成果をチェックすれば、学生は一定の時間内にどの程度の内容を覚えられるか、常に自己点検ができるので、時間をうまく使って、効率よく学習する方法も身に着ける。

(表2)

ai	ei	ao	ou	
ia (ya)	ie (ye)	ua (wa)	uo (wo)	üe (yue)
iao (yao)	iou (you)	uai (wai)	uei (wei)	

従来の初級教科書は、会話体の文面がメインになっている。しかし、応用の内容が教科書に反映されていない。その点について、『漢語課本』を作る際に、いくらか工夫をしている。会話体の部分は三つに分かれている。次は第七課を例に（「文末付録」を参照）、使い方を解説したい。会話Aは四つの単文からなっている。目標は前課「是」の文の復習と、新しい文法内容「疑問詞」の使い方紹介にある。会話BはAより二つ文を増やし、動詞と助動詞の使い方をここで導入する。会話Cは第七課のポイントをまとめるような形で、分量もAやBよりさらに長く作る。30人未満のクラスでは、次のようなことを試みた。

会話Aの朗読→5分間暗唱の準備→ペアで暗唱を披露

会話Bも同様に覚えさせる。先に準備ができたペアから順にチェックしていくと、自分から進んで次の内容を覚えるようになる。しかし、会話Cはやや長めなので、暗唱するのに不向きだと判断し、朗読の段階に踏み止ま

る。会話の内容に対する理解へ方向を転換する。ここで、文末に用意している質問が活用される。これらの問題は会話の内容から作られたもので、答えを本文から探し出すことは難しくない。この練習を通して、会話文の内容をもう一度整理することができる。また、文法説明をしなくても、諾否疑問文と疑問詞疑問文に対する答え方が自然と分かってくる。後の文法説明のために下準備ができる。また、クラスによってはタイプが違うので、様子を見ながら、準備した教案を随時に軌道修正する。たとえば、書くのが得意なクラスに、リスニングや文法の練習問題を多く与える。話すのが得意なクラスに、発言の時間を多めに作る。

この教科書は、教科書と教案の間のようなものである。従来の教科書は本文や文法ポイントを取り上げるだけの洗練されたものが多い。本文をいかに展開するかは教員のやり方次第である。しかし、これでは、学生は掴み所がなく、しばしば教科書に書いてある内容さえを覚えていけば、中国語が習得できるという勘違いを招く。語学の習得を通して、学習能力を養うという観点からみれば、教案にある一部の展開内容を教科書に載せることで、学生にさまざまな角度から考える機会を与えられる。さらに、同じ内容を組み建て直し、記述体の短文を付け加えることで、単発な文だけではなく、まとまった話を書く力も伸ばすことができる。

### 三、教授法の実践例

これまでは授業のやり方はほとんど担当先生に任せている。各々の教授スタイルがあるなかで、多く見られている教授法は、単語や文などの朗読、意味の解説、日本語への訳、例文の紹介、練習のため作文などといったシンプルなものである。会話中心の授業においては、もっぱら朗読の繰り返し、暗記、ペア練習になる。時間があれば、全員に対して徹底的に発音などを指導する。実際、定員が40名以上のクラスでは、毎回一人ずつ丁寧に指導する余裕がおそらくないであろう。学生の意欲次第で、うまくいくケースもある。

上記のシンプルなやり方に少し工夫することで充実かつ楽しい90分間が作れると考えている。以下はさまざまなクラスに応じた教授法の実践例をあげていくこととする。

#### (1) ピンイン記号の教え方

一年間の学習のうち、前期の半年が一番重要な時期である。この間に、ピンイン記号の学習が最初の難関である。

その理由の一つは、学習時間の不足にある。通年科目の場合、前期15回の授業で習うものが限られている。15回の内、5回～7回は発音（ピンイン）の学習に割く。

しかし、これだけ時間かけるにもかかわらず、いざ漢字にピンインを付けて読ませると、学生は四苦八苦する。結局、発音編が終了したと同時にピンインが無視され、学生はカタカナで先生の発音をメモするようになる。

ピンインはアルファベットを使って表記するもので、学生はつい使い慣れている英語と混同してしまう。丸暗記して、書き取りテストをすれば、その時には覚えられすが、時間がたてば、また分からなくなってしまう。ならば、しっかり覚えられるように、初めからより印象的な説明の仕方をすればよいであろう。母音の表記に関しては、筆者はつぎのような説明を試みた。

単母音を一つずつ黒板に書きながら、**a** という記号は口を大きく開ける形だと連想させる。同様に、絵文字感覚で次々と記号の形を注目するように説明する。

**o** という記号は口を丸くしている形を表現している。

**e** という記号は口をやや横に引いている形を表現している。

**i** という記号は横から見れば、口元が左右に引く形になっている

**u** という記号は唇が前へ突き出すような形を表現している。

**ü** という記号は **u** と同じ口の形を表現している。

**er** の **r** はアルファベットを倒して見ると、舌の先が上がっているように見える。

このような解説を行いながら、唇の形を示すイラストを見せ、さらに手で唇の大きさを示すと、効果的である。イラストだけでは平面的で、イメージしづらい。しかし、手のひらを全開したり、小さく丸めたりすれば、それにつられて学生の口も大きく動くことができる。

日本人学生にとって、口、顎、関節を円滑に動かすことは難しい。手のひら大きさに合わせて、反射的に口を動かす訓練によって、動作の熟練度が上がる。また、本人の持ち物を利用するのも一つの方法である。母音の発音練習では、言われている要領を頭で理解しているが、いざ実践すると、自分の口の形が見えない。その問題を解決するために、鏡を使う。手鏡を見ながら、確認するか、臨席のクラスメートと互いの口元を見ながらチェックする。先生の指示に従って単調に練習するより、学生同士を積極的に動かす。クラスの雰囲気改善にも役立つ。

発音だけの授業は二、三回続くと、学生は飽きてくる。教案作成の際、前半が発音練習で、後半は簡単な文法説明を導入すると考慮すべきである。この時も、教科書の構成に拘らないで、発音編の内容と本編の内容を並行して進めると効率がいいと思う。

## (2) 顔を上げ、声を出させる方法

授業では学生はうつむくことが多く、だんだん元気がなくなる。朗読の時、このような姿勢では、はっきりし

た発音ができない。その時、学生に教科書を両手に持ち上げるよう指示する。こうすれば、声がよく通る。学生も発音の気持ちよさを感じる。

また、単語カードを見せながらの発音練習も効果的である。カラーなものがあれば、より興味を示す。伝言ゲームなどを利用すれば、学生は一層積極的になる。たとえば、単語カードの裏に写真を張り付ける、成功するチームに写真を見せる。

## (3) 暗唱のやり方

習った内容をその場で暗唱する。これはよく使われている方法である。暗唱する内容の分量についてよく考えておかなければならない。初級では、単文(センテンス)が4つ~6つは適量であろう。少なければ、学生は時間を持て余す。多ければ、記憶するのに時間がかかる。また、暗唱の成果を確認する際、さまざまな方法がある。筆記でチェックする場合、5分間暗記時間を与え、その後教科書を伏せて、覚えた内容をその場で紙に書く。後に全員の分をまとめて確認できる。口頭の場合、確認方法は以下の通り：

- 一人で丸暗記(全員に5分間暗記の時間を与え、後に任意に数名をチェックする。)
- ペアでロールプレー(まずペアを決める。→自由にペアを組むか、くじ引きによってペアを作る。次にペアで教科書の内容を丸暗記し、教科書の内容を自分の情報に置き換えるよう練習させる。この作業には5分間から7分間が必要である。最後に役を決めて、会話式で披露する。全体の暗唱成果を確認したい場合、二回に分けるか、くじ引きで任意に数ペアだけチェックする。クラスが少人数の場合、演技を加えて、芝居感覚でクラスの前で、披露させる。)
- 長めの記述文章を覚える場合、3-4人を一つのグループを作って、グループのメンバーが力を合わせ、リレー式で全文を暗唱すると、ゲーム感覚があって、連帯感が生まれる。

## (4) 慣れさせる作業

数字を学ぶときの例を挙げる。毎回の初めに数字を見せ、読ませると、数字に慣れる。初めて数字を学ぶとき、書き方が問題ではなく、漢数字や算用数字を正しい発音で読めるかが問題点である。数字は抽象的なもので、思っているより厄介なものでもある。カードを見せながら、読ませる。その作業が終われば、数字の順番を変えて、読ませる。次は片手の指で、中国式的数字表示法を教えて、学生たちに自分の指で数字を表す練習をさせる。さらに、指で示す数字を中国語で言わせる。このような作業を毎週繰り返しさせれば、「1-10」の読み方はかなり印象的になる。さらに自分の学籍番号を覚えさせた

り、電話番号を中国語で言わせるなど、身の回りの数を活用すると、より効果的である。3 - 4回ごとにテーマを変えて、単発な言葉で構わないが、声を出す習慣を身に着けるための訓練は毎回の授業に取り入れるべきと思う。

#### (5) 漢字の書き方

日本は漢字圏の国で、学生は漢字学習に問題がないと考えられてきた。しかし、実際第二外国語学習で中国語を選択した学生の多くは、「漢字苦手」意識が強い。一方、中国語は漢字表記なので、理解しやすいと軽く見られる傾向がある。いざ漢字を書く段階にくると、文字の全体像をうまくつかめない。これは、漢字の構造に対する理解が不十分だと考える。確かに欧米の学生と比べて、日本人学生は漢字を書くことにおいて、それほど苦にならない。しかし、見た目が漢字らしくなっても、「請多关照」を「清多美照」に書いてしまえば、大きな間違いになる。中国語の簡体字は確かに理解しにくい面があるので、覚えさせる工夫が必要だと思う。その一つは、物語を作って、文字の構図を覚えさせる。

例えば、簡体字の「书」の書き方を説明する時、次のようなストーリーを加える。上に小さな本の箱を置く、下に大きいめの本の箱を置く、梯子を立て、2つ重ねた箱の上から一冊の本を取り出すと、「书」という字が出来上がる。専門的な説明ではないが、このような解説をすると、学生が漢字に対する興味が湧いてくる。

## 終わりに

中国語の読み書きという面において、日本人学生は欧米の学生より有利である。一方、それによって、中国語学習が簡単であるという先入観はいまだに多くの学生の中にある。しかし、実際発音を習いはじめると、すぐに難しさを感じるので、先入観との間に大きなギャップが生じる。故に、多くの学生は声を大きく出して発音することに抵抗がある。本文は、このような問題点をメインに考えた教授法をまとめたものである。そして、これから初級中国語の教授法についてさらに探求していくために、これまでの授業の中で感じたことをここにとりあげている。

多くの学生は、中国語を一般教養の一つとして見ている。大学1、2年次の学習終了後、継続して習う機会が少ない。一般教養なら、「你好」、「我是日本人」が話せる程度で終わらせるのではなく、新しいものを学習する際の方法や考え方を身に着けるのも大事であろう。中国では、「不要在一棵树上吊死」という言葉がある。物事を進めるとき、一定のルールに従うのが前提で、しかしさまざまな困難に直面したとき、角度を変えてものを考え、柔軟に対応する。それは一種の能力である。中国語学習を通して、その力を養うのが一般教養科目の本来の目的だと考えている。教員はさまざまな教授法を学生に体験させることは、学生に異なる角度からものを考える力を養う土壌を与えるようなものである。中国語の教授法について探求することは重要な意味がある。

付録：『漢語課本』第七課（拔粹）

会 话 huì huà A

 Tā shì shéi ?  
： 她 是 谁 ？

 Tā shì Guō Yàn.  
： 她 是 郭 燕 。

 Tā shì nǎ guó rén ?  
： 她 是 哪 国 人 ？


 Tā shì Zhōngguó rén.  
： 她 是 中 国 人 。


生 词 shēng cí

郭燕(名)中国人の名前    哪(疑問代)どれ、どの    国(名)国

会 话 huì huà B


 Nǐ hē kāfēi ma ?  
： 你 喝 咖 啡 吗 ？

 Wǒ bù hē kāfēi.  
： 我 不 喝 咖 啡 。

 Nǐ xiǎng hē shénme ?  
： 你 想 喝 什 么 ？

 Wǒ xiǎng hē hóngchá.  
： 我 想 喝 红 茶 。

 Nǐ xǐhuan chī shénme ?  
： 你 喜 欢 吃 什 么 ？

: Wǒ xǐhuan chī miànbāo.  
我 喜 欢 吃 面 包。

### 生 词 shēng cí

喝(動)飲む 咖啡(名)コーヒー 想(助動、動)～したい、思う 红茶(名)紅茶 喜欢(動)好きだ 吃(動)食べる 面包(名)パン

### 会 话 huì huà C

: Nǐ shì Fú gāng dàxué de xuésheng ma?  
你 是 福 冈 大 学 的 学 生 吗 ？

: Wǒ shì Fú gāng dàxué de xuésheng.  
我 是 福 冈 大 学 的 学 生 。

: Nǐ shì jǐ nián jí de xuésheng?  
你 是 几 年 级 的 学 生 ？

: Wǒ shì yī nián jí de xuésheng.  
我 是 一 年 级 的 学 生 。

: Nǐ dǎsuan xuéxí shénme zhuānyè?  
你 打 算 学 习 什 么 专 业 ？

: Wǒ dǎsuan xuéxí Hànyǔ. Nǐ ne?  
我 打 算 学 习 汉 语。 你 呢 ？

: Wǒ yě dǎsuan xuéxí Hànyǔ.  
我 也 打 算 学 习 汉 语 。

大学(名)大学 福冈大学(名)福岡大学 的(助)～の 几(疑問代)いくつ 年级(名)学年  
打算(助動、名)～するつもりだ、考え 学习(動)学ぶ、勉強する 专业(名)専攻学科 汉语(名)中国語

说一说 **shuō yi shuō** (話してみよう) 会話文の内容に基づいて、次の質問に答えましょう。

Guōyànshìnǎguórén ?

(1) 郭燕是哪国人？

Tiánzhōngshìnǎguórén ? Zuǒténgne ?

(2) 田中是哪国人？佐藤呢？

Tiánzhōngxiǎnghēkāfēima ? Tiánzhōngxǐhuānchīshénme ?

(3) 田中想喝咖啡吗？田中喜欢吃什么？

TiánzhōngshìFúgāngdàxuédexuéshengma ?

(4) 田中是福岡大学的学生吗？

Tiánzhōngshìjǐniánjídexuésheng ?

(5) 田中是几年级的学生？

Tiánzhōngdǎsuanxuéxíshénmezhuānyè ? Zuǒténgne ?

(6) 田中打算学习什么专业？佐藤呢？

本文

Wǒshì Rì běnrén . Wǒshì Fú gāng dà xué rén wén xué yuàn yī nián jí dexuésheng  
**我是日本人。我是福岡大学人文学院一年级的学生。**

Wǒyào xué xí Hànyǔ . Zuǒténgyě dǎsuan xué xí Hànyǔ . Wǒ xǐ huān hē hóngchá .  
**我要学习汉语。佐藤也打算学习汉语。我喜欢喝红茶。**

GuōYànshìZuǒténgdeZhōngguó péngyou . Tādezhuānyèshì Rì yǔ .  
**郭燕是佐藤的中国朋友。她的专业是日语。**

生词 **shēng cí**

朋友(名)友人



换一换、练一练 huàn yi huàn、liàn yi liàn (換えてみよう、練習してみよう)

次の語彙を使い、上の文の.....部を置き換えて練習してみましょう。

1、

学 院 xué yuàn (学 部)	专 业 zhuān yè (専攻学科)
人 文 rén wén	历史 lì shǐ 文学 Wén xué 法语 Fǎ yǔ 德语 Dé yǔ
法 fǎ	法律 fǎ lǜ
经 济 jīng jì	经济 jīng jì 经营 jīng yíng
商 shāng	商学 shāng xué 贸易 mào yì
理 lǐ	
工 gōng	建筑学 Jiàn zhù xué
药 yào	
医 yī	
体育科学 tǐ yù kē xué	

2、 喜欢+名詞 // 喜欢+動詞 (+目的語)

① Wǒ xǐ huan xióng māo .  
我喜欢 熊 猫。

② Wǒ xǐ huan xué xí Hànyǔ .  
我喜欢 学习 汉语。

③ Mèi meì bù xǐ huan māo .  
妹妹 不 喜欢 猫。

④ Mèi meì bù xǐ huan chàng kālā' ok .  
妹妹 不 喜欢 唱 卡拉 OK。

⑤ Nǐ xǐ huan nà jiàn yī fu ma ?  
你 喜欢 那 件 衣服 吗 ?

⑥ Tā xǐ huan yóu yǒng ma ?  
他 喜欢 游 泳 吗 ?

生 词 shēng cí

熊猫(名)パンダ 妹妹(名)妹 猫(名)猫 唱(動)歌う 卡拉OK(名)カラオケ 那(代)あれ、それ  
件(助数)衣類を数える助数詞 衣服(名)服 那件衣服→あの服 游泳(動)泳ぐ

【提高 tígāo】

- 1 次の項目について、中国語で隣の人にインタビューを行ない、その答えを中国語で記録し、後に先生の質問に答えましょう。

項目：①国籍                      他（她） .....

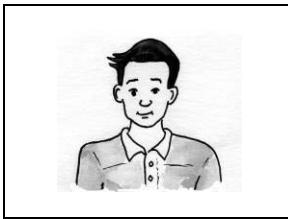
          ②大学                        他（她） .....

          ③学部                        他（她） .....

          ④学年                        他（她） .....

          ⑤専攻                        他（她） .....

- 2 第六課と第七課で学んだ内容を用いて、次の絵の人物を紹介してみましょう。



氏名：李暉（Lǐ Huī）

国籍：中国

大学：华东师范大学（Huádōngshīfàndàxué）

学部：外语                      専攻：日语  
学年：二年级

.....

.....